

地域の皆さんに、一体となって保育園・小中学校を支えていただく、
「池田町コミュニティ・スクール」 **かわら版**



土曜ふるさとクラブ(美術クラブ) 常盤井さん

和澤さん(花見) 保育園への野菜提供

子どもと地域との交流

休み時間に新たな体験を? 「あいそめ♡らいぶ」

会染小学校では、地域の方が特技や作品を披露し、子どもたちと交流する「あいそめ♡らいぶ」が開催されています。7 月には、松島法子さん(民生委員)が『ラベンダーの花を使ったててる坊主』の作り方を教えてくださいました。9 月は袖山由起子さん(民生委員)が秋の花や敬老の日に合わせた生け花を披露してくださいました。小学生は「そのお花みたことある〜!」などつつぶやき、完成していく様子を見学しました。学校の先生は、「子どもにとって知らないものを知る機会は貴重だ。」と話し、今後も多くの地域の方に関わってほしいと願っているようです。袖山さんは、今回を機会に植物に興味をもち、生け花をやってみたいと思う人が増えることを期待していました。

地域の人は学校で子どもたちとどのように関わり活動をしているのだろう?



学校で育ったラベンダーを使用



子どもたちの元気な姿にパワーをもらう

「竹竹バンブーハウス」地域資源を使った小屋を作成!

高瀬中学校の総合的な学習の時間では、地域資源を活用した授業が展開されています。『竹竹バンブーハウス』のグループでは休憩スペースとして竹の小屋を作っています。地域コーディネーターの宮本和紀さんの紹介で、矢島宝一さんと石濱和宏さんが小屋づくりを支援してくださっています。生徒は「竹を切るのが大変だった。ぜひ壁や屋根の様子など近くで見てほしい。」と話してくれました。矢島さんは「まずは話を聞いてみよう」と高瀬中に来てみた。生徒と一緒に考えながら活動するのは面白い。」と元気な中学生の様子について語ってくださいました。小屋は高瀬祭でも披露されます。



竹の小屋を組み立てる様子

子どもの学びのため

先生たちも学びを止めない

異年齢交流！？「はっぴーちょいす」

池田保育園で行われている「はっぴーちょいす」は、年少・年中・年長の子どもが自分で活動内容を選択するものです。クラスの単位でなく学年がごちゃ混ぜになります。普段の教室では見られない子どもたちの表情をみることができるのが特徴的です。年下の子はお兄さん・お姉さんに憧れを持ち、年上の子は頼りにされる存在であることを意識します。池田町では、保育園、小学校、中学校の連携を大切にしています。そのため合同研修会も開かれ、先生方の指導にあたっていらっしゃる村瀬公胤先生は「この異年齢交流が小学校、中学校とつながっていくと、もっと面白いことになると思う。」と期待していました。

※村瀬公胤先生・・・一般社団法人麻布教育ラボ所長。教育コンサルタント。

池田町の保育園、小学校、中学校の先生方のご指導を長年担当してくださっています。



保小中 15 年プランについては
こちらから→



「あいそめ♡らいぶ」でも高学年が
低学年に譲る様子がみられたよ～

みんなで育む地域の学び場

高瀬中 PTA 親子作業ボランティア

PTA 親子作業として校庭の草刈りと体育館の清掃が行われました。晴天のもと、親子で協力しながら汗を流す姿が見られました。この活動を通じて、保護者や子どもたちは温かい交流ができたようです。地域ボランティアの方も来て支援してくださいました。



学校の外での学び「浦安の舞」

池田八幡神社例大祭の「浦安の舞」の練習は、子どもたちにとって、学校とは一味違う大切な学びの場になっています。「舞を見て楽しそうだったから。」と好奇心から集まった池小の6年生 6 名。近年はやりたい人が集まりづらいようですが学校帰りに社務所に集まって 1 時間ほど熱心に練習に励んでいます。最初はぎこちなかった動きも、練習を重ねるごとに息が合い美しい舞になっていきます。子どもたちは、お互いに教えあい、励ましあう中でだんだんと緊張もほぐれ仲間意識を育んでいます。学校という枠を超え地域の中で育まれるこうした活動は、協調性や「キラリ」とかがやく自分らしさを表現できる場所として大きな役割を果たしています。



子どもも大人も一緒に伝統を守る



宿題やおしゃべりも楽しむ

各校園では、子ども達の遊びや学習、環境整備等でのボランティアを募集中です。子どもたちのためにこんなことをしたいというご提案も随時受けつけますので、各校園、または教育委員会にご一報ください。



問い合わせ 池田町教育委員会 電話 61-1430 Fax 61-1665】

《ただいま☆いけだまち ～小さな町で大きな幸せ見つけよう～》

「雑誌だって資源ごみ。読み終わったら燃やさず分別！ リサイクル！」